



最後は向こう三軒両隣



千葉県柏市西山町会防災会
会長 牧添 初

西山町会は松戸市と境界を接し、柏市の外れに位置しています。2018年4月現在637世帯、65歳以上が42.6%です。大規模災害時、行政の応援は直ぐには届かない、という前提の元、自主防災組織の活動を組み立てています。防災会設立は2001年4月です。

1 全戸安否確認訓練 取組のきっかけ

阪神・淡路大震災時の時「安否確認がされていたら救えたかもしれない命がいくつもあった」と、現地で災害対応した消防士から聞いていました。また、発災当日から長期間現地取材をし、その後語り部の活動をしている某テレビ局のアナウンサーの話の中にも「安否確認がされていれば」と感じる話もありました。そこで第1回訓練から全戸安否確認に取り組むことにしました。

2 安否確認を担う向こう三軒両隣

安否確認者を防災会役員や町会役員、



住民の本部報告の様子

民生委員にすると、それらの人がいない時には実施できないことになります。また防災会および町会役員は町内の被害状況の把握・対応が任務になってきます。

そこで、住民に安否確認作業をしてもらうことにしました。町会内には35の生活班があり、1年任期の班長が置かれています。その現・前班長70名と向こう三軒両隣で、班内およびご近所の安否確認を実施しています。

3 柏市防災福祉K-Net

2006年柏市は防災福祉K-Net(柏ネットワーク)という避難行動要支援者の支援制度を導入し、当町会はそのモデル地区となりました。K-Netは柏市が災害時に支援を希望する人の名簿を作成し、町会は名簿登録者に特定の支援者をマッチングする、という制度です。2018年の要支援者登録数は87世帯113名、支援者数162名となっています。

安否確認訓練時、柏市防災福祉K-Net登録者には、支援者・班長・ご近所



災害対策本部での情報整理

の最低3回の安否確認が行われることとなります。

4 安否確認の迅速化

建物などに目に見える被害がない家は、無事なのか、留守なのか、家の中で被災しているのか不明です。班長・ご近所さんはその1軒1軒を確認しなければなりません。そこで、安否確認作業の迅速化を図るために、2013年に「無事です！プレート」を作成しました。



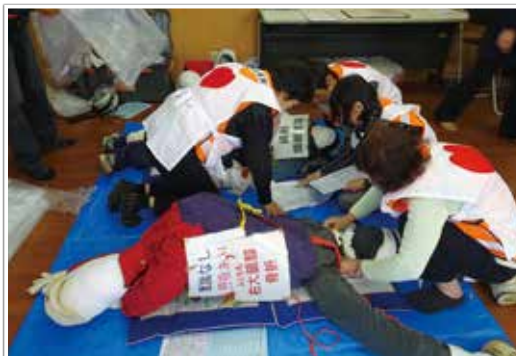
「無事です！プレート」

災害時、無事だった家は道路から見えるところにプレートを掲示します。安否確認作業はプレートがかかっている家とK-Net登録者を優先して行われます。2018年10月の訓練では「無事です！プレート」の掲示率は84%でした。安否確認率は2年連続100%でしたが、2018年は少し下がりました。まだまだ課題が出て来ています。

5 訓練概要

訓練当日、町内に「火災」「倒壊家屋」などの被害想定札と負傷者を想定した自作のダミー人形を無作為に配置します。住民はご近所の安否確認をする中で発見し、町会会館に設置された災害対策本部へ報告します。本部は情報を集約し、救

助班などを必要に応じて派遣します。救助された負傷者（ダミー人形）は会館内の仮救護所に搬送され応急手当を受けます。



救護班による応急手当

6 徹底した安否確認訓練に取り組んで感じていること

災害時に実働できる組織を目指して訓練を行い、出てきた課題を翌年に生かしながら継続していますが、実際の大規模災害を経験していないので、どこまで機能するか不安はあります。

しかし全戸安否確認訓練や柏市防災福祉K-Netに取り組んできて、確実に町会内の人と人のつながりが強くなっていると感じています。「災害時にこそ、住民のつながりは力を発揮する」。災害体験者の言葉です。本当の成果はこちらにあるのかも知れません。

防災会は、発災直後の混乱期を少しでも短くできるようこれからも訓練を重ねて行きたいと思っています。

